

令和7年11月28日  
都市美対策審議会景観審査部会  
横浜市みどり環境局

# 水際線まちづくりにおける 山下公園の整備について（審議）

- 01 山下公園の概要
- 02 水際線まちづくりにおける山下公園整備の目的
- 03 全体計画概要・コンセプト
- 04 山下公園通りエリアの整備内容
- 05 [参考] 海沿いエリアの整備概要

## [ 付議理由 ]

本事業は、水際線全体のまちづくりを進める一環として『山下公園』の整備を行い、山下公園の持つ良好な景観を維持・向上させるものです。

本件は、都市美対策審議会での審議が必須となる内容ではありませんが、今回整備の山下公園の景観に与える影響が大きいと考えられることから、先生方にご意見を伺うため付議します。

なお今回審議では、主に先行して整備着手予定である「山下公園通りエリア」の計画内容について、ご審議をお願いいたします。

※海沿いエリアは詳細検討が未了の状況のため、詳細な審議は設計が進捗し次第、改めてお諮りします。

## 1923年の関東大震災からの復興事業として整備された 本市を代表する公園

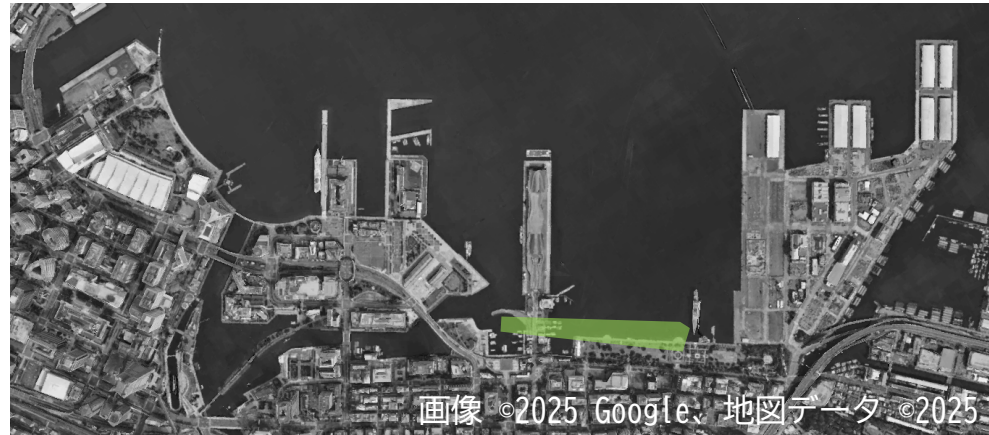
### ◆公園諸元

種別：風致公園

所在：中区山下町279番

面積：74,121m<sup>2</sup>

開園：昭和5年3月15日



画像 ©2025 Google. 地図データ ©2025

位置図



横浜開港資料館所蔵

開園当初の山下公園

### ◇ 特徴

- － [インド水塔]と呼ばれる水呑台や、中央の噴水・花壇へ至る正門の両脇にそびえる石門柱、バルコニーと柵、などの歴史の風格を感じさせる施設や港の風景と一体となった開放的な園地をもつ観光スポット
- － 園内は、海を臨むベンチ、花壇、ゆったりと休憩ができるカフェ、水と親しめる広場などをもつ



海を臨むベンチと園内を彩る花



THE WHARF HOUSE YAMASHITA KOEN [カフェ]



水と親しめる広場 [世界の広場]

## ◇水際線まちづくりコンセプトプランより（一部抜粋）

- －臨港パークから山下公園、そして山下ふ頭へとつながる水際線は、まちと海が近く、美しい港の風景や夜景、音楽アリーナ、観光・商業施設など、多彩で横浜らしい魅力が集積しています。
- －こうした水際線の多彩な観光資源の魅力の磨き上げと、「横浜駅周辺」や「関内駅周辺」等のまちづくりを連動させ、水際線とまちなかを結ぶ回遊軸を強化することにより、世界中から注目され、にぎわいがあふれる都心臨海部に発展させます。

### まちづくりの進め方

目指す姿の実現に向けて、「点・線・面」の考え方にに基づき、まちづくりを進めていきます。

#### 「点」

の磨き上げ



- ・まちと海の近さや港の風景・夜景、観光スポット、商業・エンタメ施設など、多彩で横浜らしい魅力資源のポテンシャルを最大限に発揮できるようアップグレードします。
- ・新たな魅力・にぎわい施設を整備するなど、横浜ならではの魅力を創出します。



<左下>photo: 大野隆介

#### 「線」

の創出



- ・磨き上げた魅力資源を結び付けるため、連続した歩行者空間の創出や移動そのものが楽しめる仕掛けづくりにより、水際線エリア全体の魅力を向上させます。



#### 「面」

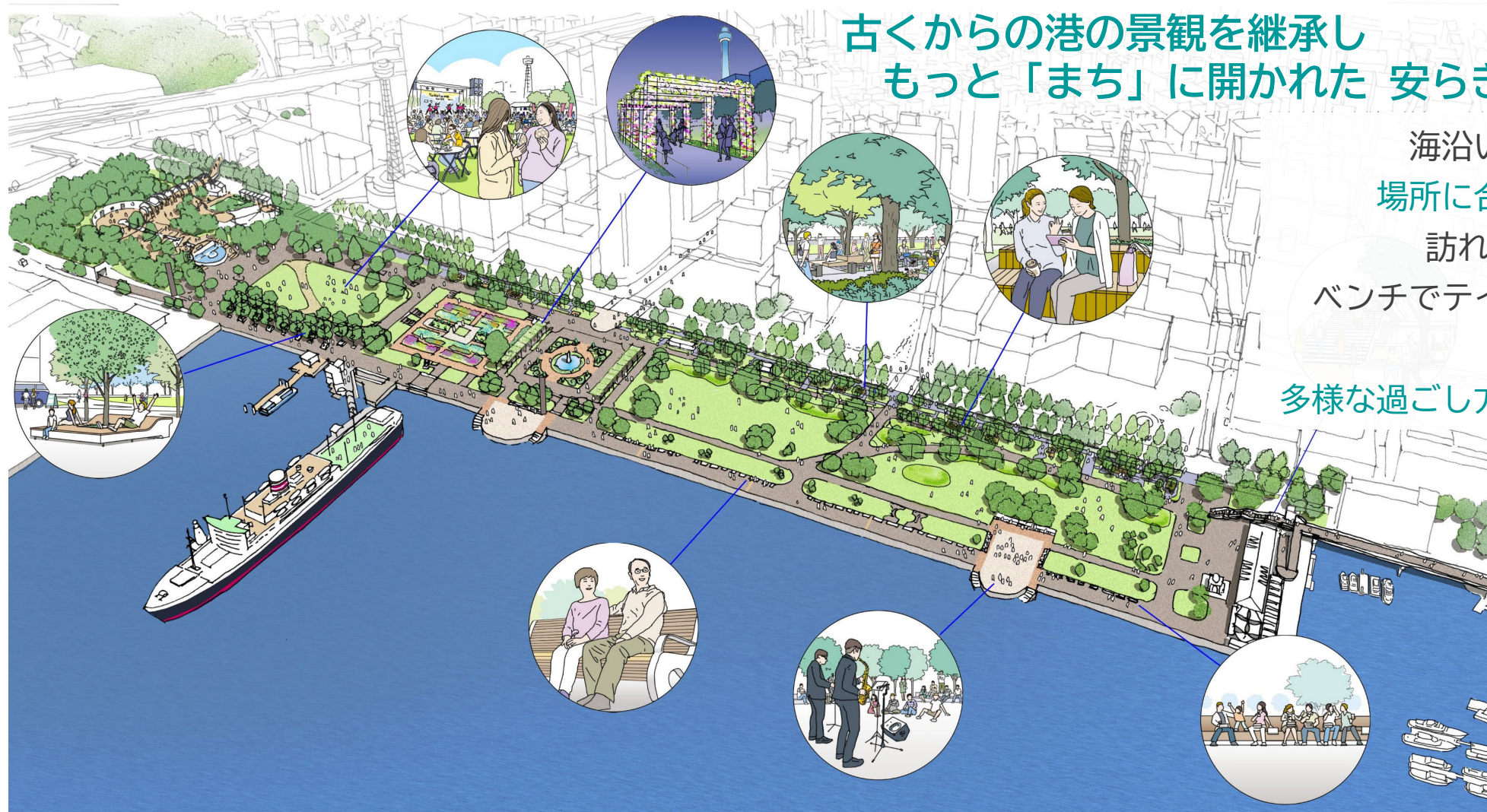
の展開



- ・公共空間の積極的な活用などにより、水際線のにぎわいと主要駅周辺の拠点整備等によるにぎわいを連動させ、水際線からまちへ、まちから水際線への更なる人の流れを生み出し、都心臨海部全体を活性化します。



山下公園を水際線まちづくりのコンセプトを踏まえて整備し、水際線～まち全体の魅力向上に繋げる



古くからの港の景観を継承し  
もっと「まち」に開かれた 安らぎとにぎわいを生む公園へ

海沿いや山下公園通り沿いといった  
場所に合わせたくつろげる空間を創出

訪れる人々が 港町を満喫しながら  
ベンチでテイクアウトグルメを味わったり  
四季折々の花を楽しむなど

多様な過ごし方ができる場所へと進化させる



公園周辺は、横浜を象徴する景観が集まるエリア  
ーベイブリッジや氷川丸を望む港の風景  
ーイチョウ並木やホテルニューグランドなどの  
山下公園通りの歴史的な街並み

◇具体的な整備概要



**1. 山下公園通りエリア**  
まちと一体となった  
開放的な公園空間の創出  
(令和8年3月 着工予定)

**2. 海沿いエリア**  
水際線を楽しむ多様な居場所空間の創出  
(令和9年以降 着工予定)

山下公園通りエリア

まちと一体となった開放的な公園空間の創出

Before

まちから港の景観を感じにくい



After

新たな入口や小路・ベンチを設置  
境界を意識せず、海を感じる事ができるウォークブルな空間をつくる



海沿いエリア

水際線を楽しむ多様な居場所空間の創出

Before

2人がけベンチが並んでおり  
多人数での利用・多様な利用が  
生まれにくい



After

新たに多目的に使えるベンチなどを設置  
食事やイベントを個人・グループでも楽しめるような居場所をつくる

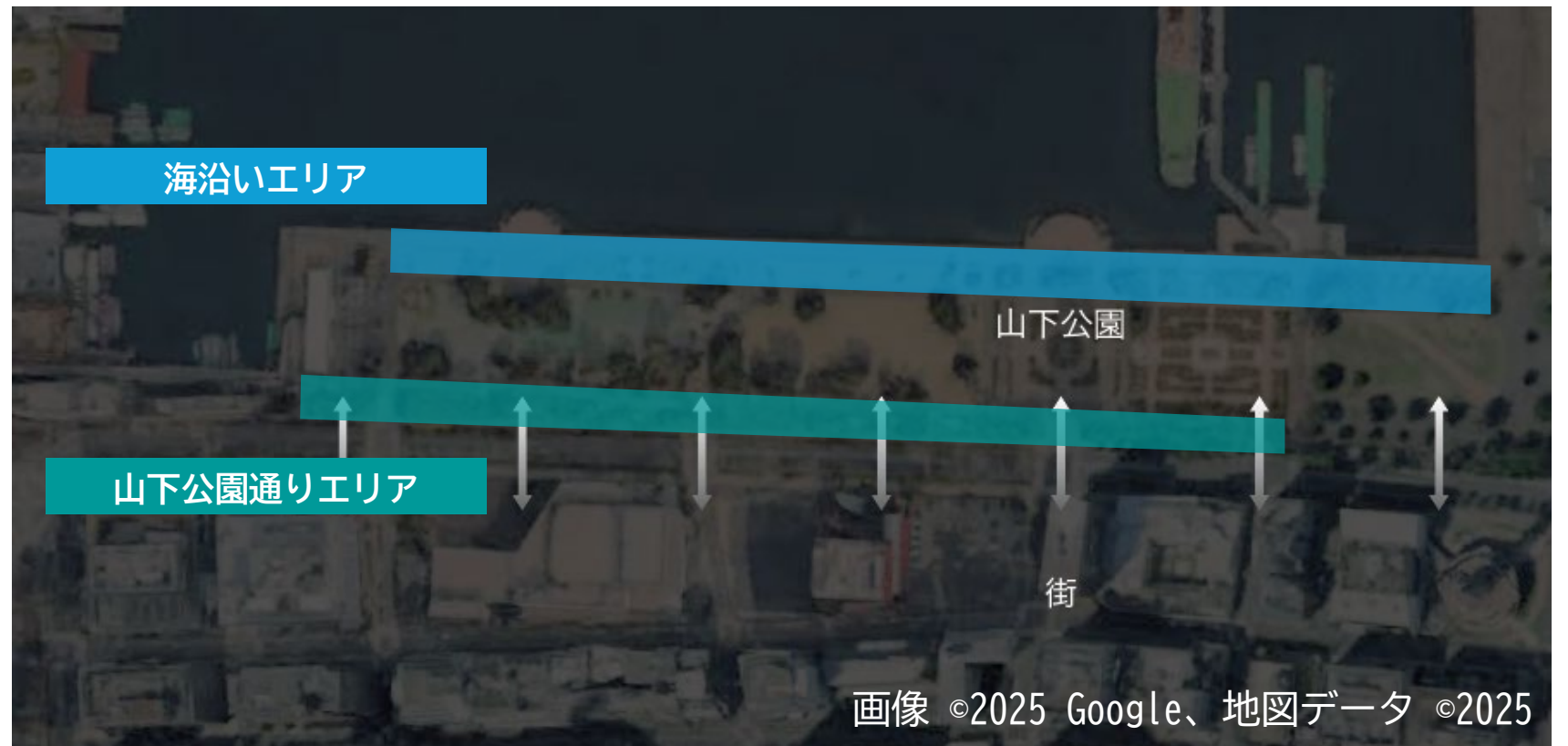


## 山下公園通りエリア

山下公園通りの歴史と重厚感のある雰囲気をつまみながら、  
海側の公園とも調和し一体感のある景観を形成するデザインとする

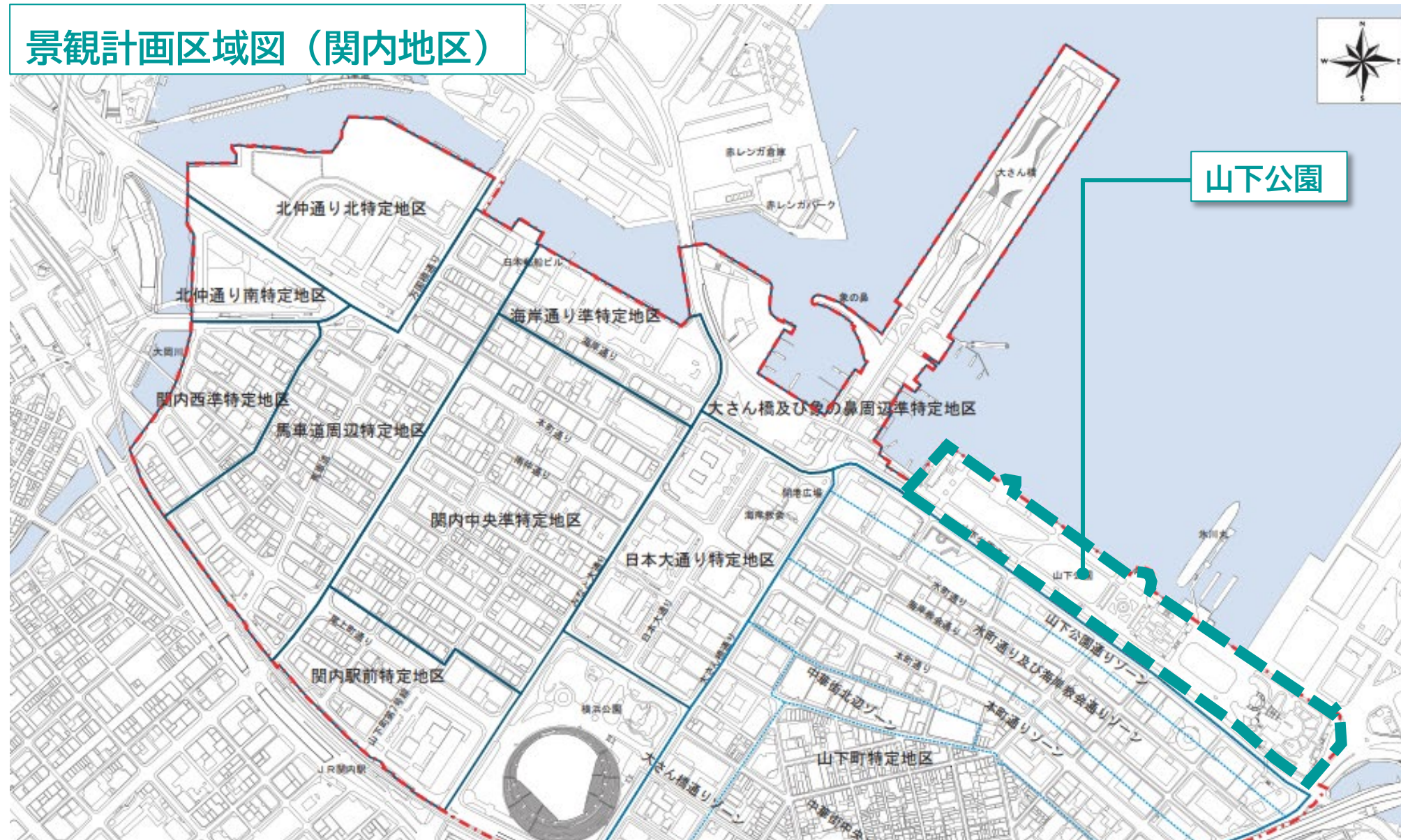
## 海沿いエリア

ベンチなどに多人数での利用を想定した機能を持たせ、  
海沿いの景観に合うような、港のモチーフを踏まえたデザインとする



山下公園は本市の景観計画上「関内地区」に該当しており、本地区の景観計画に沿って整備を進める。

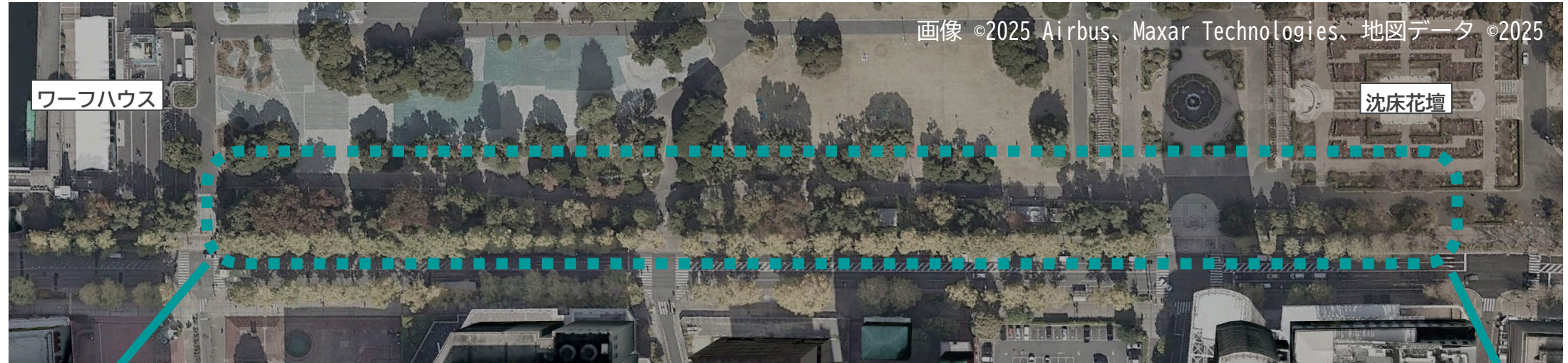
景観計画区域図（関内地区）



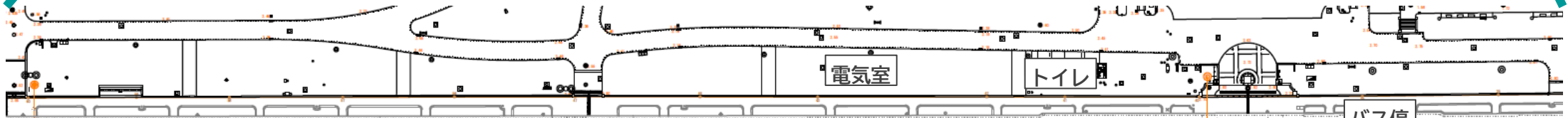
- 横浜市景観計画区域（関内地区）
- 特定地区・準特定地区 境界線
- ゾーン 境界線

新たな入口／小路／ベンチの整備を実施し『山下公園とまちをつなぐ』

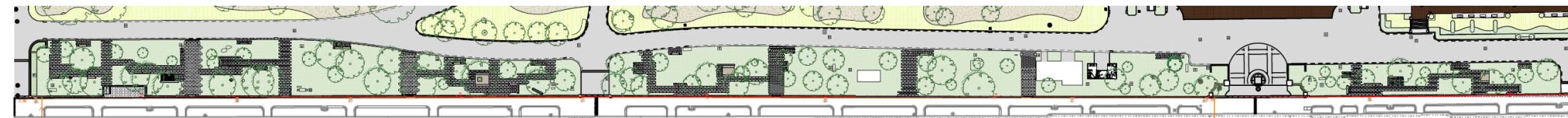
位置



現況

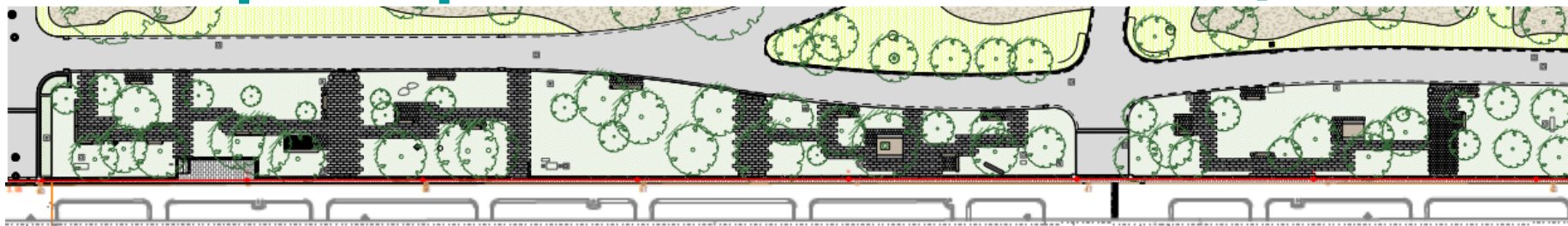


計画



既存入口と樹木・トイレなどの位置、座った場所から楽しめる景観を踏まえ  
新たな入口とベンチ、これらをつなぐ小路の位置を検討

←----- 港の景色や芝生広場・花を臨む ----->



ワーフハウス側

公園、港、山下公園通りの景観を楽しみながら  
木々の下のベンチや縁台で憩えるよう配置を検討

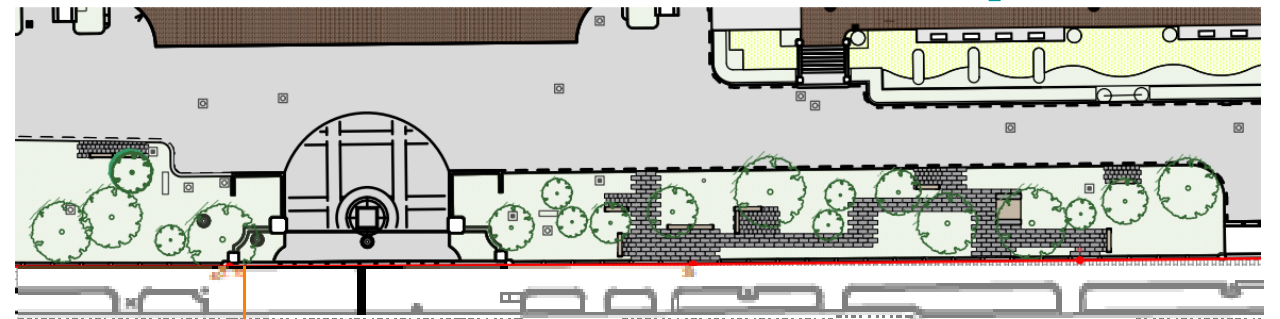
### ワーフハウス側から見られる景色

港の景色とベイブリッジ、公園の芝生広場や花

### 沈床花壇側から見られる景色

氷川丸やシダレザクラ、ホテルニューグランド

氷川丸とシダレザクラ



沈床花壇側



ホテルニューグランド

公園通り沿いの景観を踏まえながら 海側の公園とも調和するデザインに



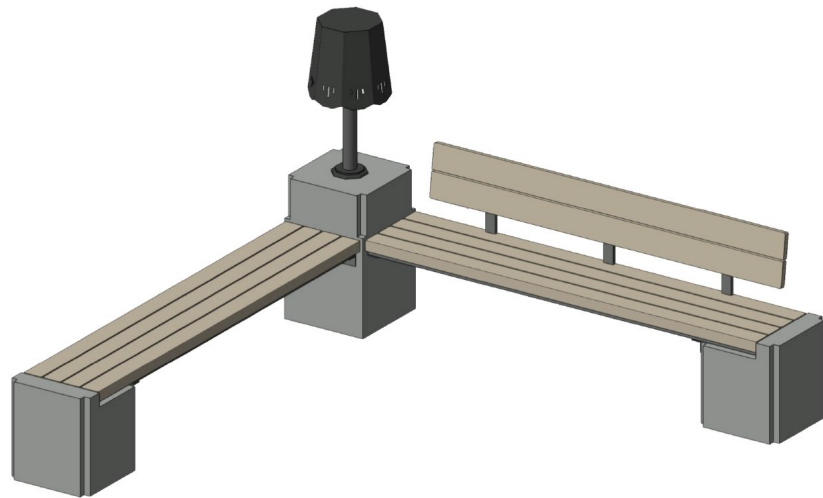
※ ここからの設計詳細は、山下公園通りエリアを代表し  
西側のスタート地点 [ワークハウス側区間] の図を用いてご説明します

## ◇ 設計の考え方

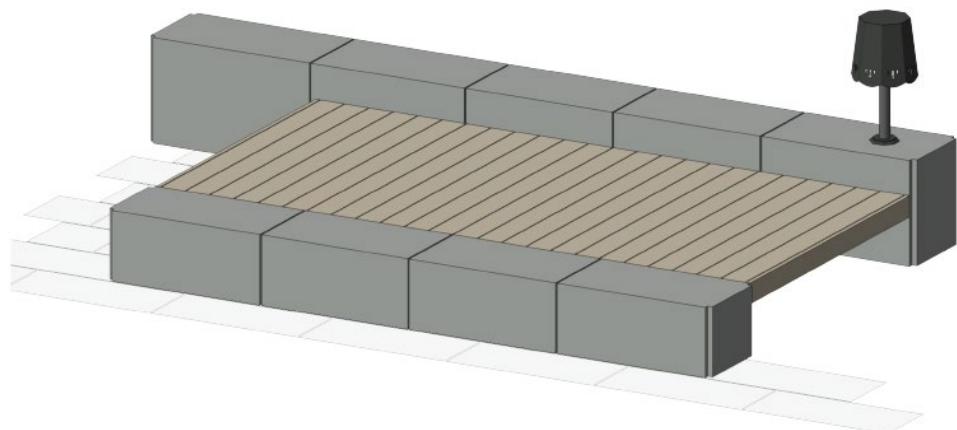
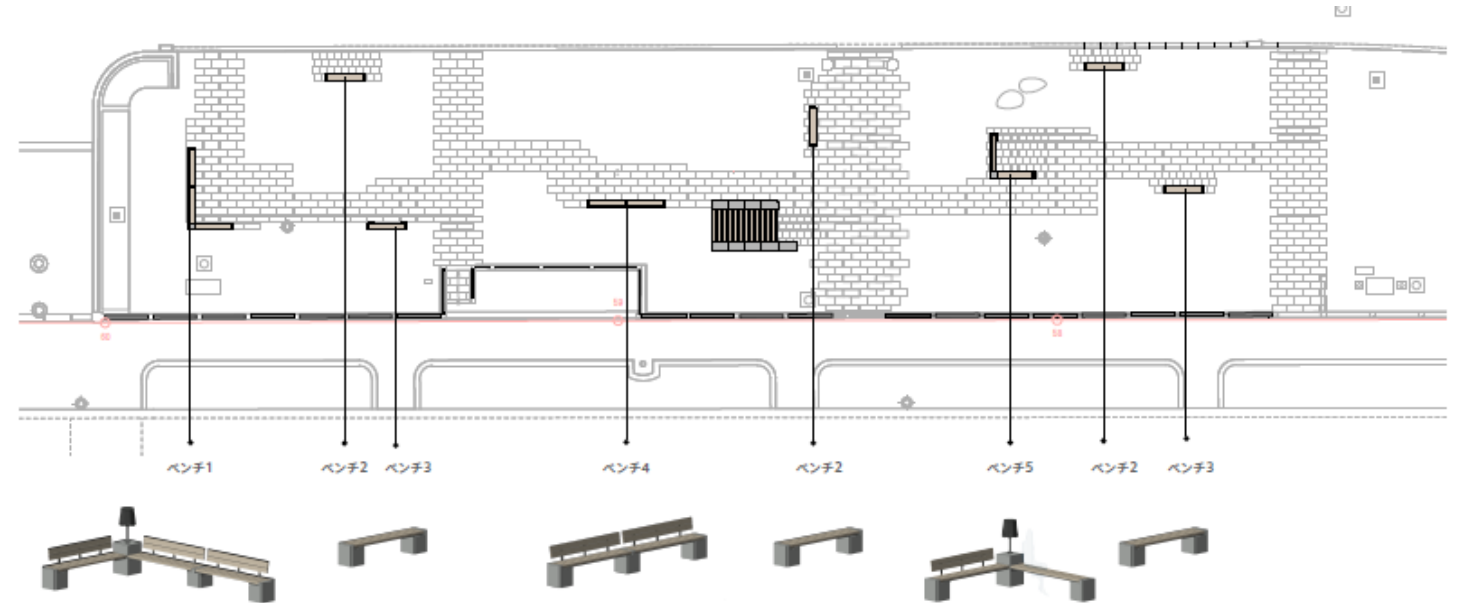
- ベンチ・縁台の柱は、公園通り沿いの既存石柱（国指定登録記念物）の意匠をモチーフとした
- ベンチの座板の角度や高さなどは「横浜市福祉のまちづくり条例」の規定に準拠し、だれでも使いやすい形状とした
- 縁台は、大人数での利用を想定し、座ったり寝転がったりできるようなサイズとする
- 照明は、ホテルのテーブルランプをイメージし、来園者がリビングのようにつろげる空間を演出する

## ◇ 使用素材

- ベンチ板材は木陰の汚れやすい環境を加味して擬木板とし、実際の木目に近い製品を選定
- 石材は黒御影石とし、既存の公園通り沿いにある石材と一体性のある景観をつくりあげる



ベンチ



縁台



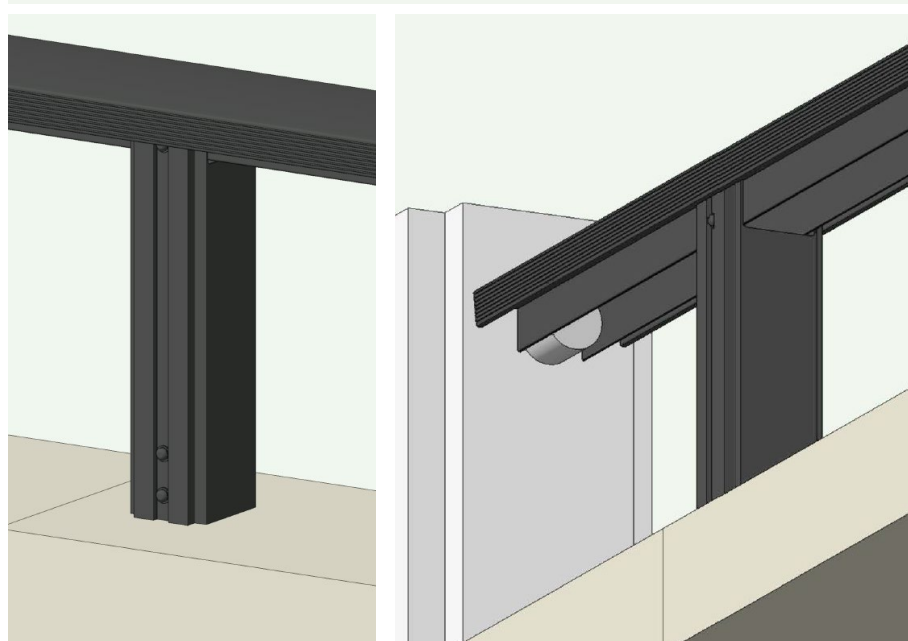
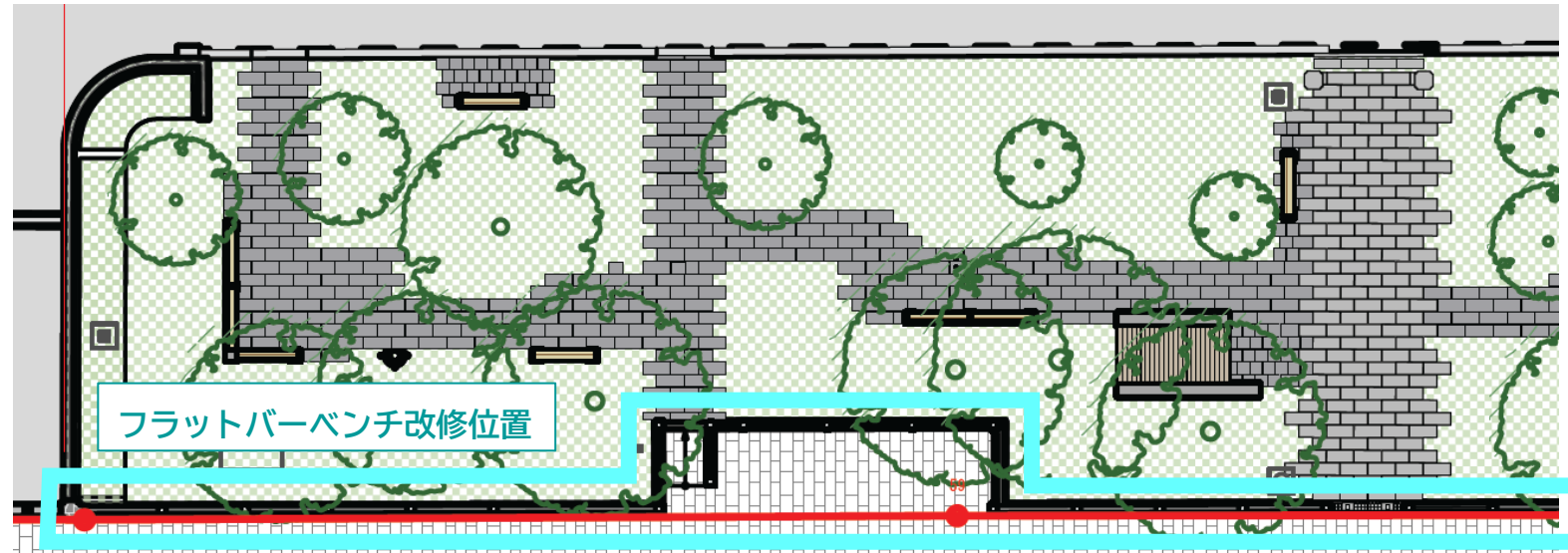
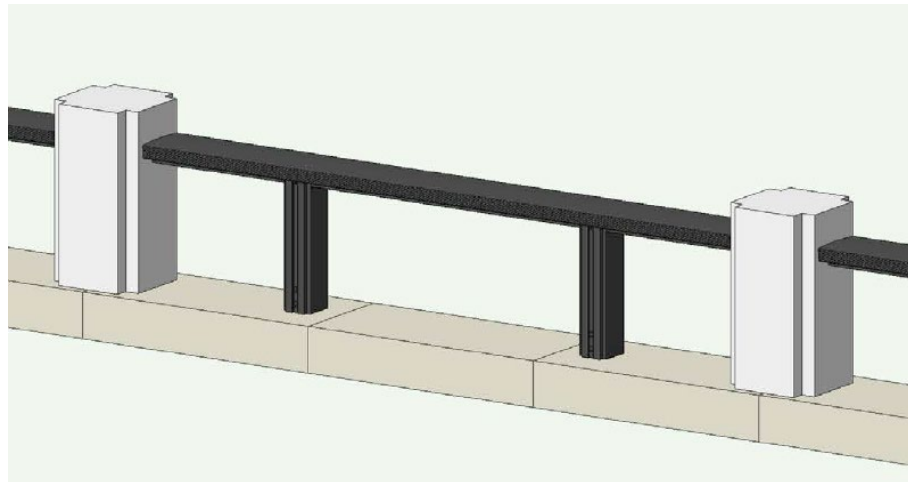
既存の石柱（国指定登録記念物）

## ◇ 設計の考え方

- 日本大通のような座れる意匠のフラットバーを設置し、公園通り沿いの街並みを眺めながら休憩できる居場所をつくる
- 既存柵を撤去し、残った石基礎に柱を直接建てることにより登録記念物を保全する
- デザインは通り沿いのガス灯のモチーフとし、正面部にスリットをつける

## ◇ 使用色・素材

- 経済性・施工性に配慮しアルミ製型押し整形により制作する
- 仕上げはアルマイト仕上げとし、アルミでありながら重厚感のある意匠を実現する
- アルマイト仕上げの塗色は、横浜市景観計画に準拠した色見とする（ダークグレー）



既存石柱（国指定登録記念物）  
[既存柵を撤去しフラットバーベンチを設置]



座れる柵のイメージ  
（日本大通）



既存ガス灯

## ◇ 設計の考え方

- 既存の公園入口の意匠を拡大させることとし、石材舗装とする
- 入口は公園通りから公園内にバリアフリー勾配で入れる形状とし  
スロープ設置や石柱の基礎を下げたて設置することで石柱等を保存する
- 園路整備では既存の地形を生かし、樹木と既存景観を保全する

## ◇ 使用素材

- 素材は白御影石とし、既存の公園園路の石材と同等の素材とする



既存地形を生かし園路整備で樹木を保全する



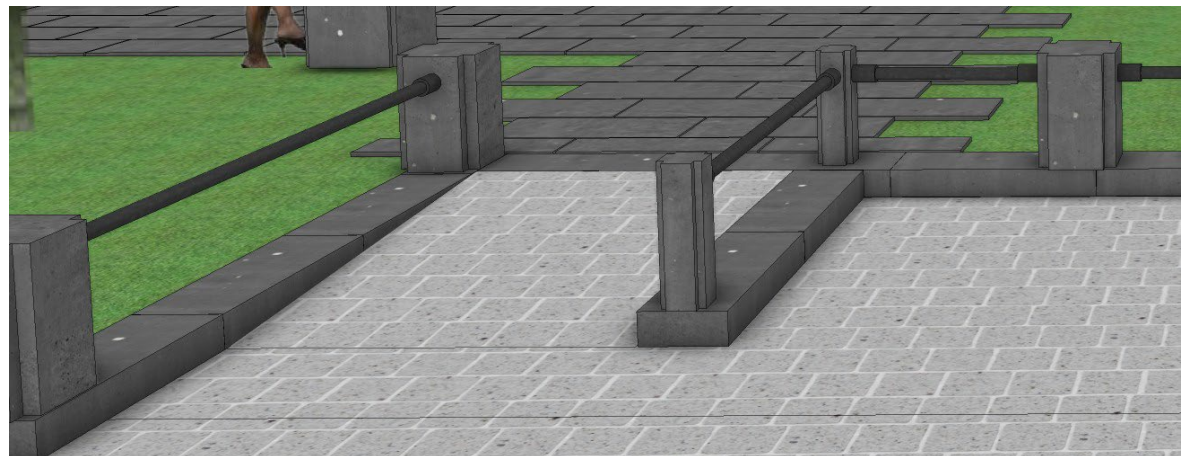
既存入口と石材舗装の現況



駐輪場周辺の現況



石柱の基礎を再利用し、深く据えなおすことで段差をなくす



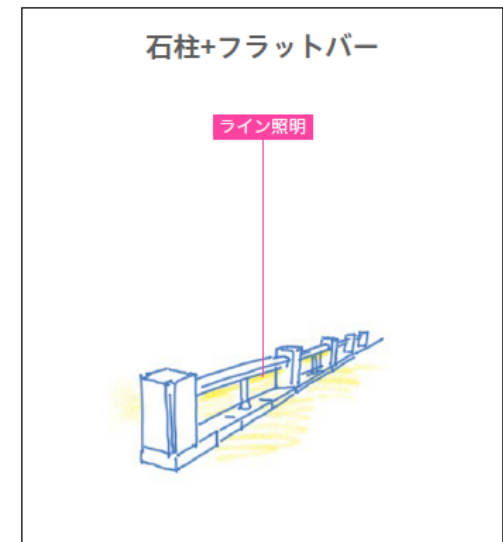
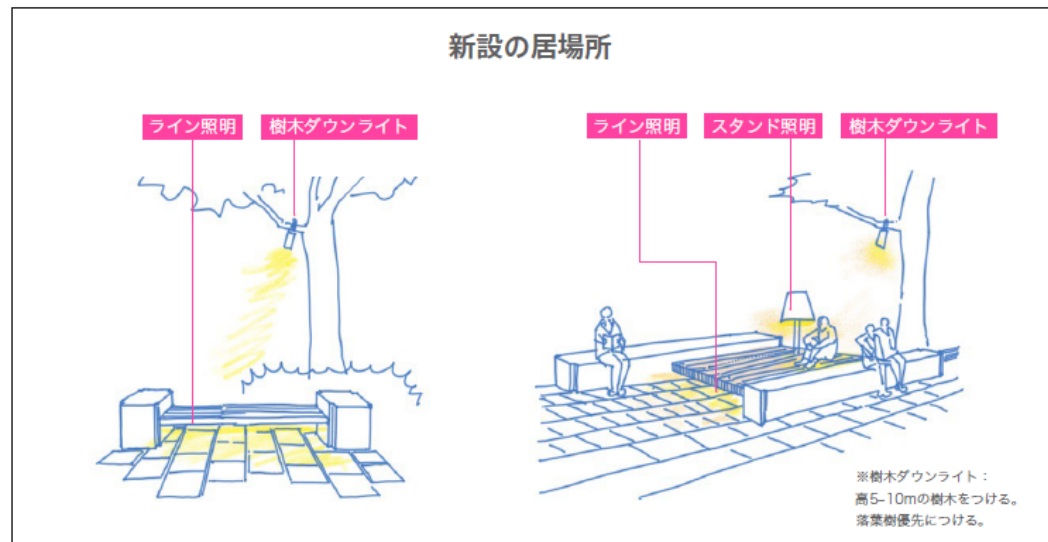
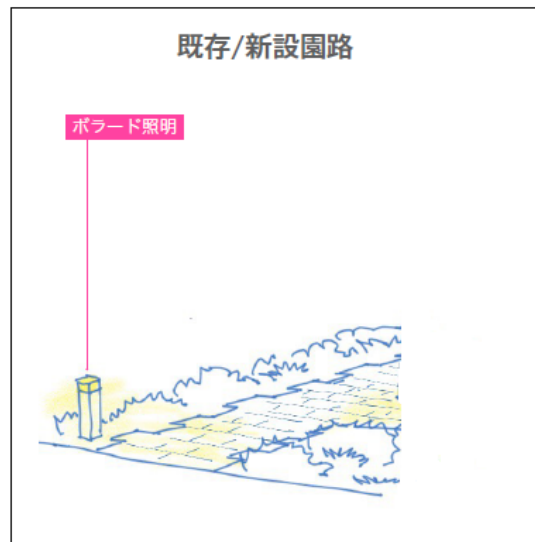
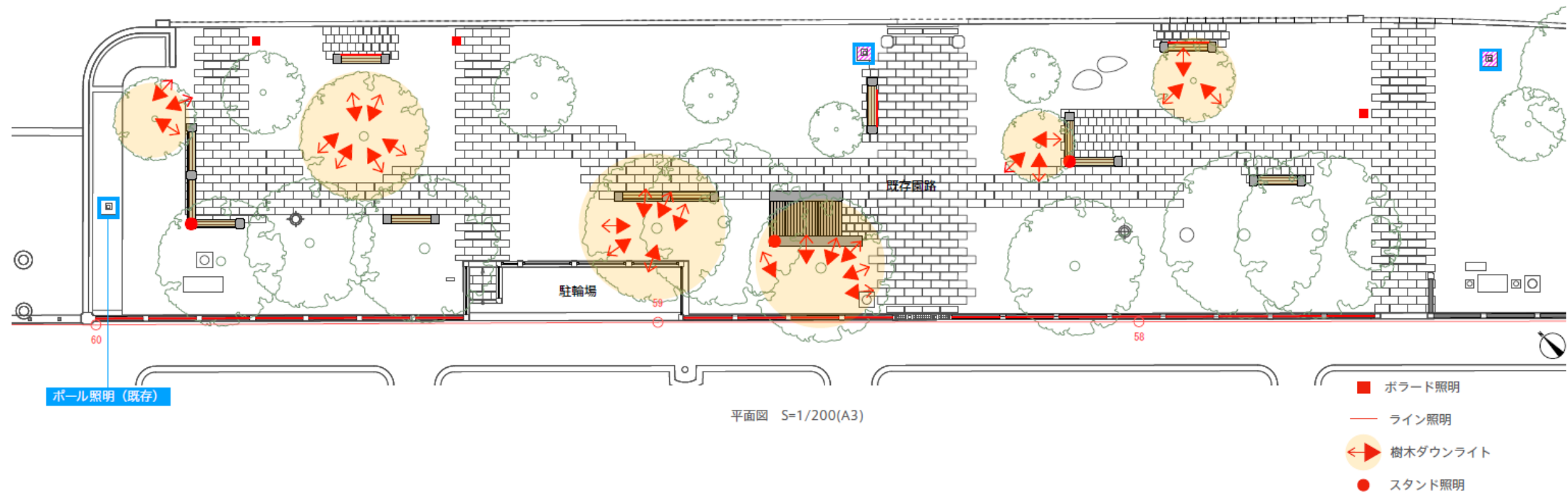
既存駐輪場の箇所は、スロープを設置することで段差を解消する

## ◇ 設計の考え方

- 新たな入口／小路／ベンチの整備に伴い 夜も公園を安全に楽しめるよう照明を整備（照度や色温度は園内の既存照明に合わせる）
- 公園通り側の夜の新たな魅力的空間としてフラットバーに照明を整備
- 樹林地内の照明は樹木への光害を防ぐため、樹木の枝にスポット照明を配置（樹木ダウンライト）

## ◇ 使用色・素材

- 金属製とし、横浜市景観計画に準拠した色見とする（ダークグレー）

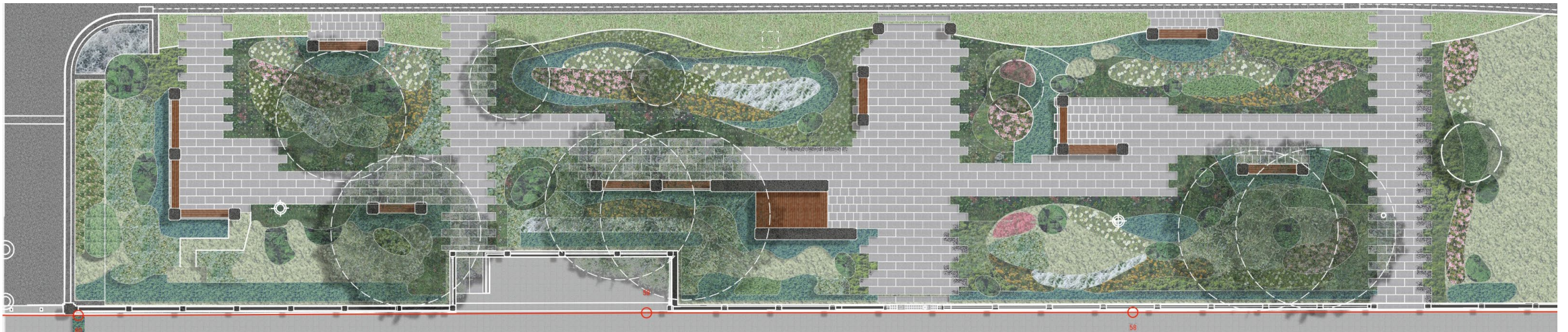


## ◇ 設計の考え方

- まちと海側の一体感を創出するコンセプト実現のため、長く市民に親しまれている既存の公園景観を継承しながら見通しの悪くなった植栽の見直しを行う
- 既存景観の骨格となる高木は原則保全し、背丈が高くなり見通しの悪化や防犯上の懸念のある低木／地被植物は移植・撤去を行う
- 新たに整備するベンチ・縁台からの新たな景観を作り出すため、植栽の入れ替えも実施

## ◇ 使用素材

- 基本日陰となる環境を踏まえた良好に維持管理ができる種類を選定
- 1年草などを植えられる余地をあえて残し、フレキシブルに華やかさを演出できるよう配色を検討



場所の特性に合わせたベンチを設置し 多様な利活用を生み出す 新たな居場所の創出を検討

画像 ©2025 Airbus、Maxar Technologies、地図データ ©2025



ベンチ1  
wave rest

ベンチ2  
view rest

ベンチ3  
Harbor step

既存ベンチを活かす



ベンチ2  
view rest

ベンチ3  
harbor step

ベンチ1  
wave rest



個人でもグループでも使用可能な  
背もたれのあるロングベンチを設け  
長く滞在したくなる空間へ

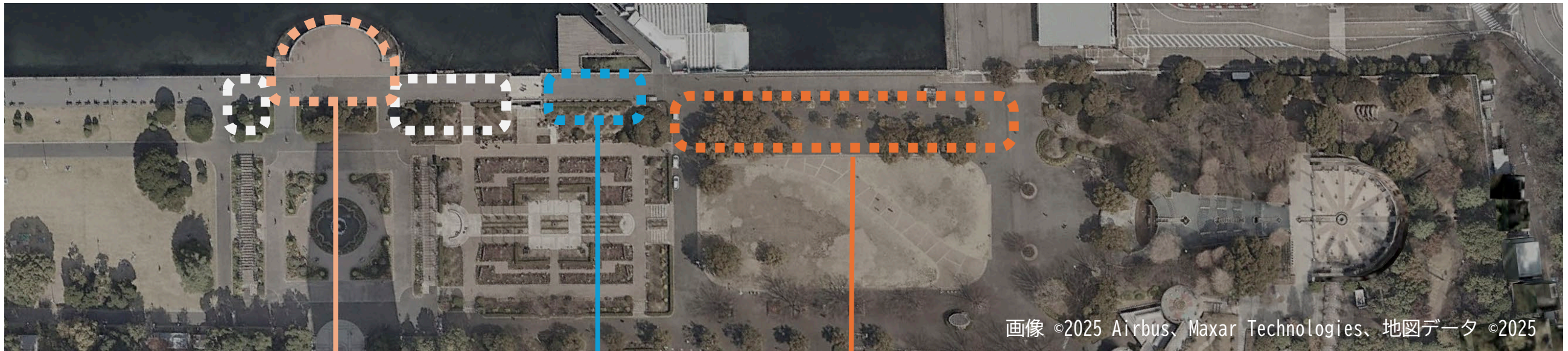


異なる人数に対応できるベンチを設け  
多様な利活用と海が見える開放的な空間を



多人数で使えるステップベンチを設け  
海を眺めながら皆でイベントを楽しむ

公園をもっと利用しやすく 多様な楽しみが生まれる空間にするための整備を検討



画像 ©2025 Airbus、Maxar Technologies、地図データ ©2025

ベンチ3  
harbor step

ベンチ1  
wave rest

波型の縁台



アウトドアラウンジとして食事やデスクなどの利用ができる波型の縁台を設置